

第3節 中世の長崎県



1 松浦党の動き

(1) 松浦党の起こり

松浦党が歴史の中で最初に活躍するのは、壇ノ浦（山口県）での源平合戦である。この戦いでは平家方として、源義経がひきいる源氏軍と勇かんに戦ったことが知られている。



壇ノ浦の戦い想像図

江戸時代に書かれた松浦家の『家世伝』によると、源久が1069（延久元）年に、現在の松浦市今福町に移り住み、松浦氏の祖先になったと伝えられているが、真相はわからない。

(2) 松浦党の特色

松浦党の勢力は、今日の長崎・佐賀両県の各松浦郡、松浦市、平戸市、佐世保市、壱岐市、五島市奈留町までもふくむ広い範囲におよんでいた。

この当時の武士団は、一族の長である惣領を中心に厳しい上下関係で結ばれていたが、松浦党は対等の立場で行動していたようである。

松浦党に属する武士たちの所領はせまかったが、事件が起こると、一族団結して行動するという特色をもっていたため、松浦党として大きな力を発揮することができた。南北朝の戦乱にあたっては連合して行動するという強い約束を何度も結んでいる。

(3) 海の豪族、松浦党

松浦党は、交易や漁業などの海の活動を中心としていたが、13世紀ごろから「倭寇」として活動していた時期もあった。15世紀ごろには、積極的に朝鮮や中国と交易をおこなうようになった。

MEMO

みんなで考えてみよう!

松浦党についてさらに
くわしく調べてみよう。
ホームページ巻末参照

MEMO



松浦党分布図

また、豊かな海の資源を生かすため漁業の範囲を一族でとりきめていた。

(4) 内部の紛争

戦国時代に入ると、松浦氏一族も団結力が弱まり、一族同士で争うようになった。

特に、相神浦松浦氏と平戸松浦氏との戦いは代表的なもので、九州のほかの戦国大名も巻き込んだ戦いであった。その結果、平戸松浦氏が主導権をにぎるようになった。

海とともに生き、活動してきた松浦党は、海の活動を中心とした平戸松浦氏に受けつがれ、平戸の発展につながっていく。



源久が居住したといわれる梶谷城跡（松浦市今福町）（提供：まつうら観光物産協会）